

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6年 6月 25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3072100484		
法人名	社会福祉法人 同人会		
事業所名	グループホーム カルフル・ド・ルポ印南		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護 介護予防認知症対応型共同生活介護		
所在地	和歌山県日高郡印南町山口150-1		
自己評価作成日	令和6年6月25日	評価結果市町村受理日	令和6年8月6日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カリア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘4-4-33
訪問調査日	令和6年7月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立地は緑豊かで自然に囲まれた環境で落ち着いた生活が出来ます。庭先にはテーブルやベンチを設置し気軽に気分転換ができるように開放的な生活空間作りを目指しています。また、プランターに四季折々の花を植えたり、野菜の栽培なども行っています。自然と季節を感じられる雰囲気にもなっています。施設内は利用者が作成した作品を飾り家庭的な環境を整えています。職員はチームワークを大切に、日々の業務に取り組んでいます。利用者の個々の楽しみとして書道、クッキング、カラオケ等の趣味活動の支援を行っています。感染症対策は継続しており面会や外出はコロナ前のように戻っていない中、流行の様子をみながら機会を設けられるようにしています。また、遊歩道の散歩や外気浴を行い外の空気に触れる機会を設け、気分転換ができるよう支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

豊かな自然に囲まれ広々とした環境の中にグループホームがあります。近くにはかえる橋やかえるのオブジェで有名なJR印南駅などの観光スポットもあり、面会に来られた家族様が面会以外にも楽しめる場所が多々あります。施設を囲む遊歩道は桜が咲き、桜トンネルの中の散歩や庭先にあるベンチで外気浴を楽しむことができます。今はまだ感染症対策を継続せざるを得ない状況ですが、居室内での面会や近隣のこども園への訪問、ご利用者全員で感染症に配慮しながら遠方に出かけ景色や外食を楽しむなどの外出の機会を確保し、ご利用者がホームで張り合いや喜びのある生活ができるよう支援されています。またイベントだけでなく、ご本人、ご家族の意見、要望やご利用者の日々の生活を支える職員の意見や提案をいつでも聞き入れる雰囲気を作り、それらを運営に反映させ、ご利用者が毎日快適に過ごせるよう取り組まれています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の運営理念を作っている。管理者と職員は毎朝の申し送りや会議の中でケアの内容を確認している。	施設の玄関や事務室内にホーム独自の理念が掲示されている。申し送りや会議を通して日頃のケアに理念が活かされているか確認が行われ実践につなげられています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策が継続されておりボランティアや施設全体の大きな行事、地域との交流はあまりできていない。2か月に1回運営推進会議を開催し家族や地域の人との意見交換をしている。。感染の状況をみながら買い物に出かけたり、混雑していない所への外出、家族との面会を行っている。	近隣のこども園から運動会への招待や地域開催の敬老会への参加予定、災害時の避難場所などホームが地域の一員として積極的に取り組んでおり、ご利用者は地域とつながりながら暮されています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で話し合いを行っている。併設施設での認知症カフェ、併設支援センターの出前研修等。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中では活動報告を行い、年間行事についての意見を求めサービス向上に努めている。事故報告も行い出席者からの意見も聞いている。	感染症対策が継続されている中、偶数月に運営推進会議を開催し、ご本人、ご家族、地域住民代表、包括支援センターなど意見交換が行われ、出された意見をもとにサービス向上に努められています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町担当者には運営推進会議に出席をしてもらいコミュニケーションを図り意見交換等も行っている。	運営推進会議に出席してもらうほか、町の運営協議会への出席など日頃から町との協力関係を築く取り組みをされています。		

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を行い、身体拘束のないケアを実施している。また、身体拘束適正化検討委員会を開催している。	年1回身体拘束をしないケアの研修が行われています。研修はWEBで行われ全職員が受講します。また身体拘束適正化検討委員会は法人全体で毎月開催され話し合われた内容は委員が各部署でフィードバックし、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修を行い虐待防止に努めている、また、虐待防止検討委員会を開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修は令和4年8月26日に実施。次回は令和6年8月に成年後見人制度の研修を実施予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な時間をとって話し合いを行っている。制度改正時などは報告を行い、説明、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の様子について適宜家族に連絡を入れ、要望など話を伺っている。必要時にサービス担当者会議を開催し家族の意向を確認している。運営推進会議で話し合った事を取り入れたりサービスの向上に努めている。	運営推進会議や面会時、電話連絡時などにご家族からの意見や要望を確認しています。ご利用者からの意見については、話してくれるご利用者は直接お聞きしたり、そうでないご利用者は日常のケアの中で職員の気づきから要望の確認をし、運営に反映されています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	毎月の会議や毎朝の申し送り時に確認し運営に反映している。1回/年、職員は自己評価を行っている。	管理者は毎月の会議では出席できない職員の意見や提案を事前に聞いたり、日常の会話でも話しやすい雰囲気づくりを意識するなど職員の意見を聞く機会を多く設け、運営に反映しています。	

12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の個々の適性を見極め適切な業務配置をしている。定期的に施設内での研修を行っている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での研修を1回/月以上行っている。施設外研修への参加も推奨している。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	オムツ業者による研修を実施し併設施設職員と一緒に受講した。また、外部研修に参加した際に交流している。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では訪室回数を増やしたり本人の言葉を傾聴する事を心掛けている。他の職員との交流ができ良好な関係が築けるよう支援している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族の意向を聞き不安な部分や心配な部分の確認をしている。家族の立場に立って気持ちを受け止められるよう努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	開始時の話合いでグループホームのサービス内容の説明を十分に行い、必要に応じて他のサービス利用についても話合いをするようにしている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は家族のように近い関係ができるよう努めている。		

19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは適宜連絡をとって本人の状況を共有し共に支え合う関係作りを心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策の継続により面会や外出は少し制限が残っており地域との交流の機会は減っている。施設行事も縮小されている。利用者が個別に参加している書道教室では併設サービス利用者との交流の機会になっている。また、ドライブで町内を通ったり馴染みの場所を見てもらったりしている。地域の人ボランティアにえられる機会もあった。	感染症対策は継続され制限はありますが、馴染みの人やご家族が訪ねてこられた時は外や窓越しではなく、裏からご利用者の居室に直接入り面会していただくなど工夫されています。また友人から電話や手紙が届いたり、返信の手紙を送るなど馴染みの関係が途切れないように努められています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係を考慮し食事の席などの調整を行っている。コミュニケーションが難しい場合は職員が間に入り、交流ができるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した利用者、家族との関わりはできていない。終了時にはその後の相談などできる事を伝えている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の生活の中から本人が望む暮らしを把握し実現できるよう努めている。話し合いを行い家族と連携し本人本位の支援を心掛けている。	入居時や入居後にもご本人やご家族に思いや希望などを聞き、施設での暮らし方の把握に努められています。また面会を重ねるたびにご家族と打ち解けさらに深く詳しくお話しいただくことができ日々の生活の支援に努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを十分に行い入居前の状況を把握するようにしている。入居後も本人、家族の声を聴き個々の思いをくみ取るよう努めている。		

25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員個々の視点から日常の観察、利用者の状況把握を行い利用者の有する能力や意欲に合った支援を話し合っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向や利用者の変化に応じて適宜話し合いの場を設け介護計画を作成している。必要に応じて主治医、PT、OT、看護師の意見と取り入れている。	ケアプランは3か月毎に見直しが行われています。毎月の会議やケア会議、ご家族からの意見や医療スタッフの意見も取り入れケアプランに反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を記録し必要事項は毎朝の申し送りで共有している。それらの情報を基に介護計画の作成に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じてできる事の対応は事業所で検討し取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人ひとりが持たれている希望・能力に合わせて地域とできる限り関わりが持てるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の納得を得た地元の開業医と連携し対応している。職員同伴で通院支援を行っている。適切に医療が受けられる体制を整えている。	基本的には嘱託医による往診を月二回受けていますが、以前からのかかりつけ医の受診も可能です。専門科への受診は家族が付き添い困難な場合はスタッフが代行しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	4月より配置された看護師が中心となり健康管理に努めている。介護職員も日常の様子を観察し看護師と情報共有し必要な支援が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医療機関と情報交換をしている。入院中も連携をとり、退院前にはカンファレンスに出席し必要な話し合いを行っている。		

33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた利用者に対して特養入所の提案を行っている。グループホームを希望される方については十分な説明を行い看取りまで行っている。主治医とも連携し意向に添えるよう努めている。また、グリーフケア会議を開催し家族から意見を伺い次に繋げられ、より良いケアができるように考えている。	同敷地内に法人の特養があるため、重度化してきた際は紹介しますが、どうしてもこちらで見てほしいという意向があれば、対応可能で、柔軟に施設を選択できるようになっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内では研修を行い緊急時に対応できるよう研鑽している。吸引器や処置道具もすぐに使用できるように準備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い併設施設との連携も確認している。非常食については本館特養で備蓄している。BCP作成し毎月会議により見直しをしている。	年二回夜間帯を想定した訓練をおこなっています。また法人全体でBCP会議を毎月おこなっており、災害に対する意識は高いものになっています。備蓄品は同敷地内にある法人全体分を保管しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の人格を尊重し、尊厳やプライバシーに配慮し関わるよう努めている。人権の研修も行っている。	人権研修では法人全体で内部研修をおこない、各部署で標語を作成し、選ばれた標語を施設内に掲示しています。また、研修後にはレポートを提出してもらい、フィードバックしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく利用者の思いや自己決定を尊重した生活が実現できるような関わりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り利用者の希望に沿った支援ができるように努めている。その時々に合わせて関わりができるように努めている。		

39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服を選ぶ際は本人に確認し希望に沿った服装ができるよう支援している。清潔で身だしなみが整う要支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	なるべく嗜好に添った食事が提供できるよう意見を取り入れている。給食以外でも季節の野菜を使った料理や希望の料理を利用者と職員が一緒に作る機会を設けている。毎月栄養に関する会議を併設事業所と一緒に開催している。外食の機会も設けている。	基本的に法人で調理したものを提供していますが、自家菜園で作ったさつまいもや近隣住民から提供された梅干しを食事に組み込む等、食事に飽きがこないよう工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と連携し対応している。水分摂取や体重の把握、食事時の体位や食器の形状についても必要時にはOTと連携をとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態、状況に応じた口腔ケアを行っている。歯科衛生士、看護師と連携をとり指導も受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を作成し排泄パターンの確認を行っている。利用者の状態に合わせた支援をしている。	水分・排泄チェック票を活用し、夜間帯にオムツ着用している利用者は日中リハビリパンツを着用し、利用者各々の状態に応じた支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動への声かけ、支援を行っている。特に夏場は多めに摂れるようにしている。また、腹部マッサージもしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日、時間帯について希望に合わせられないこともあるが、入浴の際には個々に合わせた方法でゆっくりしてもらえよう対応している。プライバシーに配慮した支援に努めている。	毎日三名ずつ、午前中に入浴していますが、希望に応じて時間帯の変更や曜日の変更、また同性援助を希望する利用者にも対応可能です。	

46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安心 して気持ちよく眠れるよう支援して いる	一人一人の生活状況 に合わせて安心でき るよう声かけや関わ り方を工夫してい る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について理 解しており、服薬の支援と症状の変 化の確認に努めている	薬の効能を確認し知 識の向上に努めてい る。薬局の協力を得 て分包、氏名、日付 の記載をしてもらっ ている。配薬箱に分 けて準備、複数人で 確認し誤薬防止に努 めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ご せるように、一人ひとりの生活歴や 力を活かした役割、嗜好品、楽しみ ごと、気分転換等の支援をしている	利用者の希望に沿 った趣味や楽しみ事 、生活歴や力を生か した役割が持てるよ う支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそっ て、戸外に出かけられるよう支援に 努めている。また、普段は行けない ような場所でも、本人の希望を把握 し、家族や地域の人々と協力しなが ら出かけられるよう支援している	庭先で外気浴をし たり遊歩道の散歩を したりしている。ド ライブや感染対策が できる場所での外食 の機が持っている。 希望があれば買い物 支援もしている。	夏季と冬季の気候が 厳しい期間以外は施 設周辺の遊歩道を頻 繁に散歩していま す。また、最近では 一日かけてドライブ 会を催し、コロナ禍 においても利用者本 位の姿勢を保ってい ます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひとりの 希望や力に応じて、お金を所持し たり使えるように支援している	基本的に施設では金 銭の預かりはしてい ない。希望により少 額を個人で持っている 利用者もいる。少 額を預かり自販機へ コーヒーを買いに行 く利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話 をしたり、手紙のやり取りができる ように支援している	電話は希望があれば 使用してもらってい る。個人で携帯電話 を持っている利用者 もおり頻繁に家族と 連絡を取っている。 手紙のやり取りの支 援もしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快や混乱をまねくような刺激 （音、光、色、広さ、温度など）がない ように配慮し、生活感や季節感を採り入 れて、居心地よく過ごせるような工夫を している	利用者が作った作品 を飾ったり、四季 折々の花を生けるな ど馴染みの環境を整 えている。	廊下や共同空間には 季節感が感じられ るよう、利用者が作 成した掲示物が掲示 され、リビングにはリ ラクゼーション効果 を狙い、観賞用の魚 を入れた小さな水槽 を設置する等、ゆっ たりとくつろげる空 間を提供していま す。	

53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや座椅子を設置しゆっくりと話したりくつろいだりできるスペースを設けている。畳では利用者が横になったり洗濯物を畳んだりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスやテレビなど馴染みのある物を持ち込んでもらっている。利用者と相談しながら居心地良く暮らせるよう努めている。	基本的に利用者の馴染みの物は何でも持ち込み可能であり、既存のベッドより布団の方が良いとの希望があればそれも可能になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分かりにくい場合は表札を工夫したり、目印を付けている。トイレも分かりやすいよう工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない